

# 1. 日本家族看護学会第25回学術集会 in Kochi 開催報告

平成30年9月1日(土)・2日(日)の2日間、高知市文化プラザかるぼーとを会場に、「家族看護学のグランドデザインへの挑戦」をメインテーマとして、長戸和子学術集會会長のもと、日本家族看護学会第25回学術集會を開催した。学術集會の企画・運営に際しては、看護学部の全教員が企画・協力員として準備と運営にあたったほか、多くの卒業生や修了生、在校生、高知県下の看護職の方々が、企画委員やボランティアとして協力して下さり、両日で759名の参加を得て、成功裏に終了した。



## 1) 組織

学術集會会長：長戸和子

企画委員長：中野綾美

企画委員・実行委員：池内和代、池添志乃、岩崎順子、瓜生浩子、越智百枝、河原宣子、坂元綾、佐東美緒、中平洋子、星川理恵、松永智香、森下幸子、矢野智恵、山村江美子、渡邊美保  
(下線は学外メンバー)

学内企画委員・実行委員:井上さや子、岩井弓香理、永井真寿美、西内舞里、山口智治  
運営事務局：株式会社 歳時記屋

## 2) 企画・運営

5回の企画委員会の他、役割ごとの学内検討会を適宜開催した。県外の企画委員については、テレビ会議システムを活用し、参加していただいた。企画委員会の議事内容は以下の通りであった。

### (1) 第1回企画委員会：2017年9月30日(土) 13:00～17:00

1. 開催概要
2. 役割分担
3. 準備スケジュール

4. 企画案（プログラム、講師、テーマ等）
5. 予算案
6. その他

**(2) 第2回企画委員会：2017年11月26日（日）13:00～16:00**

1. プログラム（主要プログラム企画案、日程・時間配分案）
2. 編集（演題登録項目、演題募集要項、査読）
3. 広報・渉外（ポスター、趣意書、趣意書・寄付等の発送先、学術集会案内広告掲載依頼雑誌、ホームページ）
4. 庶務・会計（封筒のデザイン、事前参加登録等、開催案内パンフレット、予算案）
5. その他

**(3) 第3回企画委員会：2018年1月21日（日）13:00～16:00**

1. プログラム（主要プログラムの企画・座長、講師・シンポジストの依頼、日程・時間配分、交流集会の申込方法）
2. 編集（査読者候補、UMIN 演題登録、査読マニュアル、査読結果入力画面）
3. 広報・渉外（趣意書、広告・寄付金申込状況、ポスター、ホームページリニューアル、雑誌広告掲載、懇親会の企画）
4. 庶務・会計（ニュースレター、査読・座長依頼、事前参加登録画面、参加証・抄録集の送付）
5. 会場（お土産コーナーの配置と出店企業の選定）
6. その他

**(4) 第4回企画委員会：2018年4月1日（日）13:00～16:00**

1. プログラム（プログラム日程、講師・座長依頼の進捗状況、役割分担、一般演題の運営方法、ホームページの掲載記事）
2. 編集（査読者、座長候補者、査読スケジュール、査読結果入力画面）
3. 広報・渉外（企業展示・広告掲載等の申込状況、今後の広報活動、市民公開講座のポスターと広報、懇親会の企画）
4. 庶務・会計（事前参加登録状況、座長依頼・派遣依頼・座長依頼文書、抄録送付文書、会計報告）
5. 会場（会場レイアウト、会場運営案、当日の実行委員・ボランティア配置、お土産コーナー店舗）
6. その他

(5) 第5回企画委員会：2018年6月24日（日）13:00～16:00

1. プログラム（一般演題セッション編成、一般口演座長、プログラム日程、示説会場のレイアウト、ランチョンセミナー、ナーシング・サイエンス・カフェの企画・運営・アンケート）
2. 編集（抄録集目次、抄録集作成スケジュール）
3. 広報・渉外（記念品、懇親会の企画）
4. 会場（当日人員配置、会場配置）
5. 庶務・会計（事前参加登録状況、学会費納入の確認状況、会計報告、ボランティア保険、招待者）
6. その他

3) プログラム

主要なプログラムは、以下のとおりであった。

- ・会長講演『変動する社会を生き抜く家族への多元的ケアをデザインする』  
長戸和子先生（高知県立大学）



- ・特別講演Ⅰ『学際的發展を導く家族療法と家族看護のコラボレーション』  
渡辺俊之 先生  
(日本家族療法学会会長/渡辺医院院長/高崎西口精神療法研修室)
- ・特別講演Ⅱ『看護の価値創造  
ー研究開発された看護技術を Health Partner として人々に届けるー』  
森山美知子先生（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
- ・教育講演『現場を変える家族看護実践のちから』  
関根光枝先生  
(日本赤十字広尾訪問看護ステーション所長/家族支援専門看護師)



渡辺俊之先生



森山美知子先生



関根光枝先生

- ・シンポジウムⅠ『家族看護学の知のイノベーション』
- ・シンポジウムⅡ『家族看護実践の深化と発展の多様性』
- ・学術集会長企画『Society5.0時代の新しいヘルスケア  
—家族、コミュニティ、社会システム』  
宮田裕章 先生（慶應義塾大学医学部 教授）



宮田裕章先生

- ・演題発表：口演 51題、示説 68題
- ・交流集会：10件
- ・ランチョンセミナー：2件
- ・市民公開講座『家族みんなで取り組もう！看護の視点から考える災害への備え』  
神原咲子 先生（高知県立大学）
- ・ナーシング・サイエンス・カフェ
- ・家族支援専門看護師による“よろず相談”



- ・日本家族看護学会 委員会企画  
『査読を活用して、よい論文に仕上げようⅡ』編集委員会  
『家族看護研究における有用な質問紙の作り方』研究促進委員会  
『家族看護モデルで事例を読み解く—カルガリー・渡辺式  
・家族看護エンパワーメントの看護モデルを用いて』教育促進委員会  
『International Family Nursing Association への参加と  
Journal of Family Nursing への投稿のすすめ』国際交流委員会

#### 4) 成果

参加者数は当初の見込みよりも少なかったが、全国より 759 名の参加があり、盛会のうちに終えることができた。

プログラムは、メインテーマ『家族看護学のグランドデザインへの挑戦』に沿って、家族看護学の実践・研究・教育の知と今後の発展の可能性について多彩な視点から検討できるように構成した。アンケート結果では、学術集会全体の内容や各プログラムについて肯定的な意見が多く、「関心の持てるプログラムの多い会だった」という意見があったように、学びの多い豊かなプログラムであったと考える。一方で、スケジュールが過密となっており、参加したいプログラムが重なり参加できなかった、示説をゆっくりと見ることができなかったなどの意見があった。また、特に 2 日目の午後は参加者が非常に少ない会場があった。

会場については、音響や空調管理に対する意見はあったものの、大きなトラブルはなく、実行委員やボランティアのご協力のお陰で、参加者の皆様に気持ち良く過ごしていただくことができた。

決算については、参加費収入が予定より少なくなったが、企業等の協賛が見込みどおりに得られ、印刷費や事務局経費を低く抑えられたことで、損失は生じなかった。

